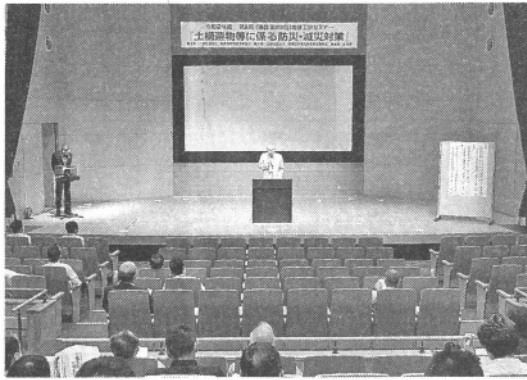


九建日報

発行所
株式会社 九建日報社

〒812-0018 福岡市博多区住吉5-9-19
電話 代表092(431)5361 番
FAX 092(431)7613 番

技術力向上へセミナー 佐賀県地質調査業協会



【佐賀】(一社)佐賀県地質調査業協会(原裕理事長)は9月30日、唐津市高齢者ふれあい会館「りふれ」で令和2年度第2回地盤工学セミナーⅡ写真Ⅱを開催した。約70人が参加し、豪雨などによって土構造物が被害を受けるメカニズムや、温暖化への影響を低減することが出来る土木技術などについて知識を深めるために、最新の知識

地質調査業に対する認識の高揚と技術力の向上を図るために、「土構造物等に係る防災・減災対策」をテーマに開催したもの。共催は(公社)地盤工学会九州支部佐賀地区、後援は佐賀県、冒頭、原理事長は「社会資本の整備などを通じて県民の安心・安全を守るためには、最新の知識

や技術を取得し、自己能力の維持・向上に努める必要がある。セミナーがその一助になれば幸いだ」とあいさつ。

介。特に被害が大きかったため池では、土砂などの流入に伴う越水によって堤体浸食が起きた可能性が高いとした。

セミナーでは、九州大学の石蔵良平准教授が「近年の九州における地盤災害発生状況と土構造物の危険度評価に向けた取り組み」、佐賀県県土整備部道路課の満石孝司技術監が「佐賀県管理道路の防災・減災対策」、原理事長が「地球温暖化とミラクルソルの環境負荷低減技術」をテーマにそれぞれ講演した。

また満石技術監は、近年の大雨による被害状況や佐賀県の対応を解説。防災・減災に向けた取り組み事例として、国道263号での落石防護柵工や県道波佐見塩田線でのモルタル吹付工などを紹介した。

原理事長は、地球温暖化が大規模な災害の発生につながっている現状を踏まえ、工法の選択において従来の経済性や安全性・機能性に加え、環境負荷低減を考慮する必要があると指摘。路盤が水分を蓄えることで温度を下げる「FWG透保水性舗装工法」の施工事例や温度変化などについて解説し、参加者は熱心に聴講していた。

石蔵准教授は、熊本地震における河川堤防の被害状況を調査し、地盤改良などの事前対策工に一定の効果があったことなどを説明。また九州北部豪雨について、朝倉市で実施したため池の被害状況に係る調査結果を紹介した。

地質調査業協会(原裕理事長)は9月30日、唐津市高齢者ふれあい会館「りふれ」で令和2年度第2回地盤工学セミナーⅡ写真Ⅱを開催した。約70人が参加し、豪雨などによって土構造物が被害を受けるメカニズムや、温暖化への影響を低減することが出来る土木技術などについて知識を深めるために、最新の知識

地質調査業に対する認識の高揚と技術力の向上を図るために、「土構造物等に係る防災・減災対策」をテーマに開催したもの。共催は(公社)地盤工学会九州支部佐賀地区、後援は佐賀県、冒頭、原理事長は「社会資本の整備などを通じて県民の安心・安全を守るためには、最新の知識

や技術を取得し、自己能力の維持・向上に努める必要がある。セミナーがその一助になれば幸いだ」とあいさつ。

介。特に被害が大きかったため池では、土砂などの流入に伴う越水によって堤体浸食が起きた可能性が高いとした。